

条件反射制御法 講義9

頓用疑似薬および他の疑似刺激 重要図

臨床で多く用いる方法

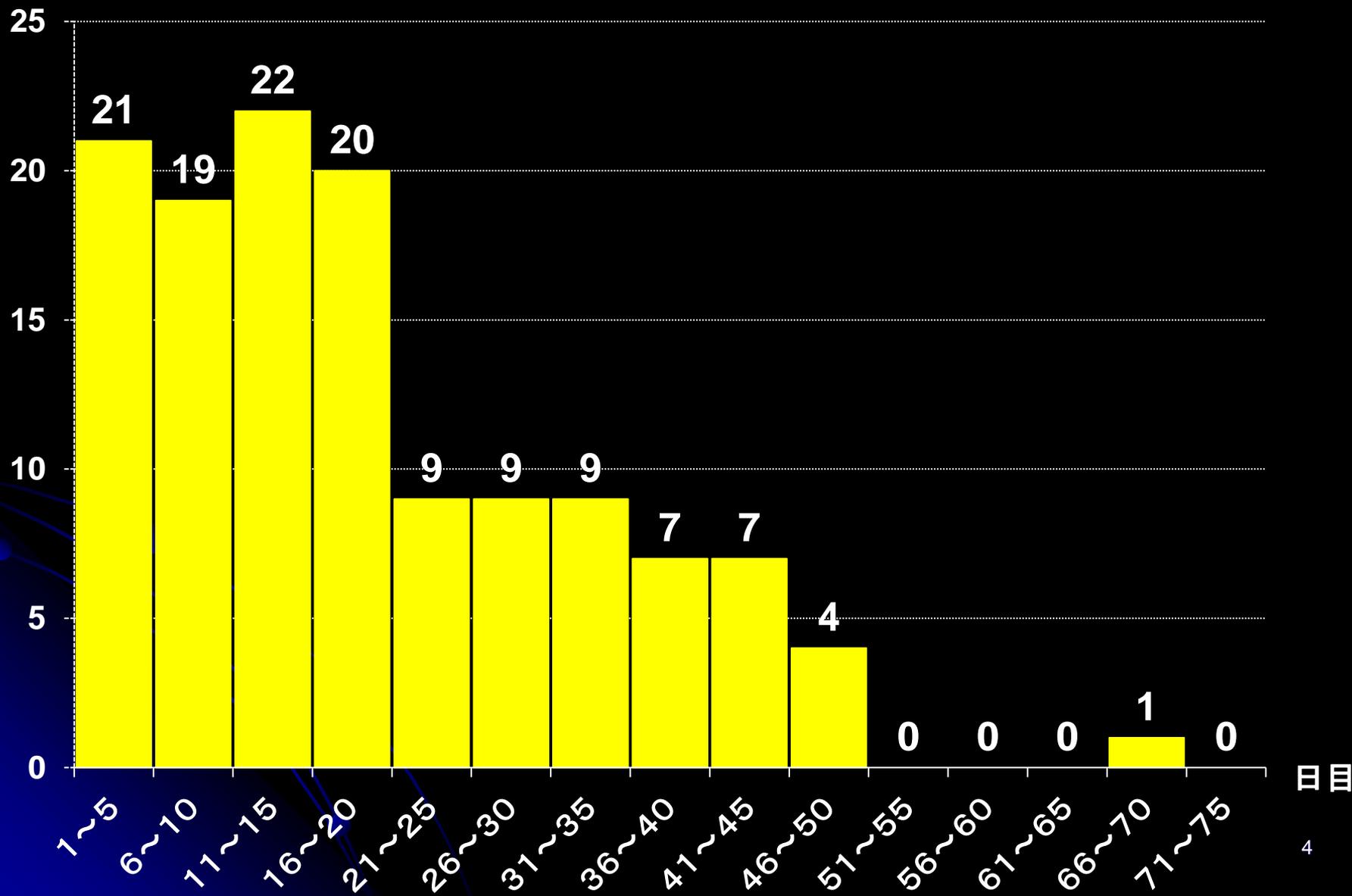
覚醒剤、アルコール摂取に対する条件反射制御法のステージを、患者の意識的な努力により進めながら、

処方薬摂取を司る反射連鎖を、患者が意識的な努力をしないで、抑制する。

内容を告げた偽薬による 処方薬過剰摂取の治療の例

偽薬服用回数(5日毎)の変遷

回数



疑似物質によるCRCTの効果

1) 短期的: **楽で、よく効く**

苦しくない。服用を我慢しなくてよい。

職員は我慢を指導しなくてよい。

最終動作後の反応が生じる。

2) 長期的: **欲求が生じなくなる**

服薬動作の後に生理的報酬は生じないので、服薬動作を促進する反射連鎖の作動性は抑制される。

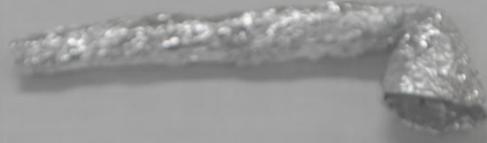
協力: メトグリーン株式会社







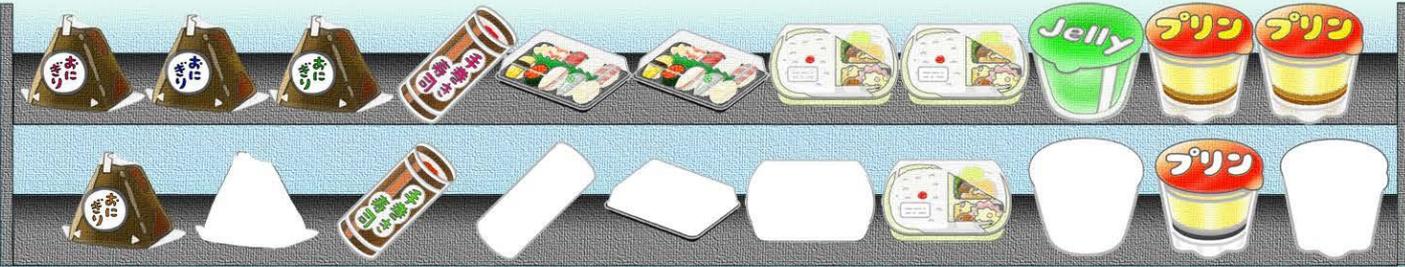
09.26.2009 13:32











協力: メビウス千葉

